

令和5年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

巻頭言

令和5年11月に当院は病院機能評価を受審した。長崎川棚医療センターがどんな病院なのかを知る良い機会になったし、受審に向けて取り組むプロセスで職員の一体感（のようなもの）の芽生えを感じた。同じく11月には九州グループでの神経筋難病エキスパートナース研修が当院で再開された。当院が神経筋難病に取り組んで得たノウハウを伝えることができた。そして10月には東彼地区公開講座を川棚町で催した。地域での役割を再認識する機会になった。これらの催しはコロナ感染対策の厳しさが緩和され人の交流が再開された証と言えるばかりではなく、長崎川棚医療センターが有する勢いの証とも言えるだろう。

令和5年度年報を読んで感じるのは、学会発表などの件数が増えていることだ。数年間低迷していた発信の数が増えている。低迷しているように見えた期間に積み上げていた実績があることを示している。これも長崎川棚医療センターが有する勢いの証と言えるだろう。

病院という組織を元気づける手段として病院に関する情報発信は重要だが、何を発信するかはこの病院が何者かを知らないといけない。病院機能評価の受審はその一助になっただろう。そして発信する機会を活用しなければならないし、発信する場を増やす必要もある。コロナ禍前に比べれば発信の数ははまだ少ないが、今の勢いを継続して次年度はもっと増えることが予想される。目に見える形での発信が増えることを望む。

令和7年1月8日

長崎川棚医療センター臨床研究部長 福留隆泰

診療部

診療部－消化器内科

■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては積極的に消化管疾患、肝胆膵疾患双方の診療に取り組んでいます。

検査、手技が多いのが、診療科の特色です。上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆向性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などを行っています。

■ 入院診療実績

疾患名	令和 5 年度	令和 4 年度
食道癌、胃癌、大腸癌	21	20
肝癌	0	1
胆道癌	3	6
膵癌	6	6
肝障害	9	7
大腸ポリープ	105	92
消化管出血	25	19
良性胆道疾患（胆石等）	20	23
胃、腸疾患	37	32
その他	73	70
消化器疾患全体	299	276

■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	令和 5 年度	令和 4 年度
上部消化管内視鏡	448	449
大腸内視鏡	397	462
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	3	14
内視鏡的消化管止血術	18	14
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	0	0
胃瘻造設術（胃瘻交換）	6(7)	7(11)
内視鏡的胃ポリープ切除術	2	0
内視鏡的大腸ポリープ切除術	112	100
内視鏡的胆管ステント挿入術	7	4
内視鏡的総胆管結石除去術	7	9
内視鏡的イレウス管挿入	2	1
内視鏡的食道ステント留置術	1	0
内視鏡的大腸ステント留置術	1	0
内視鏡的 S 状結腸軸捻転解除術	3	0
内視鏡的異物除去	5	2
内視鏡的狭窄拡張術	6	0

■ 将来の展望

現在、当科は常勤医 2 名で消化器疾患の診療に携わっております。また内視鏡検査に関しては、今年度より大学病院から非常勤医を招き、検査の拡充を図っております。今後もさらなる地域医療への貢献を目標といたします。

（文責：消化器内科 松本章子）

診療部－脳神経内科－

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症といった一般的な疾患から、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜炎・脳炎、ジストニア、てんかんなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断・治療を行っています。

当科の医療圏は、近隣の東彼杵郡川棚・波佐見・東彼杵の3町をはじめ、北は平戸から南は島原半島まで長崎県全域から、また隣接する佐賀県の嬉野市、有田・伊万里地区などからも患者さんが来院されており広範囲にわたります。新規のご紹介では、外来で詳細な問診・神経学的診察を行い、MRI/CT、RIなどの画像検査、電気生理学的検査などを駆使して診断を行います。症状のために移動が困難、頻繁な来院は難しいといった患者さん、あるいは腰椎穿刺や筋生検など入院経過観察を要する検査の場合は、入院にて検査を進めていきます。

当科の大きな特徴として、①脳卒中や髄膜炎・脳炎といった急性疾患の治療に携わること、②年余にわたる経過の神経変性疾患では、病初期の診断から治療導入、慢性期の管理まで長きにわたってお付き合いしていくこと、③パーキンソン病に対するデバイス治療・痙縮やジストニアに対するボトックス療法といった特殊治療にも取り組んでいること、④療養介護サービスによる長期入院など、非常にバラエティにとんだ診療を行っています。

入院病棟では、急性期脳梗塞、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、重症筋無力症や多発性硬化症といった免疫性神経疾患の患者さんの急性期、あるいは再発・再燃時の治療を行っています。また、神経難病をもった患者さんの感染症や転倒による骨折などの合併症の場合も、他科医師と連携して入院治療をしています。リハビリ目的の入院対応もお引き受けしています。また、進行期神経難病患者さんの在宅療養支援にも取り組んでおり、気管切開による侵襲的人工呼吸療法や、マスク装着による非侵襲的人工呼吸療法が必要な患者さんには、その導入時の調整や指導、その後の外来管理や定期的なレスパイト入院のご提案など、無理なく在宅ケアが開始・継続できるようサポートしています。

医師、病棟看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフなど、多職種が協力しあってチーム医療を行っています。特に、進行期神経難病患者さんでは、疾患の進行にともなって治療継続、生活に工夫を要することが徐々に増し、入退院の機会も頻繁となりがちですが、在宅復帰にあたっては、必要に応じて、在宅での往診医、訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めた退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

神経疾患の特殊治療としては、ジストニアや上下肢痙縮、痙性斜頸、眼瞼痙攣などに対するボトックス療法を積極的に行っています。また、痙縮では、バクロフェン髄腔内投与療法（ITB）も適応のある患者さんにご提案しています。

パーキンソン病に対する脳深部刺激療法（DBS）については、長崎県では唯一、当院で導入から定期管理まで実施しており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで脳神経外科と当科とで共同して取り組んでいます。他県の医療施設で植え込み手術を受けた患者さんでも、必要に応じて、当院で治療を引き継いでいます。

当科では教育、研究にも力を注いでいます。感じ、気づき、考えるを合言葉に、院内での勉強会を積極的に開いています。また今年度は、神経・筋難病診療の豊富な経験を生かして、神経・筋難病看護エキスパートナース講習を開催し難病を学ぶ多施設の看護師さんにお集まり頂きました。

■ 入院診療実績

疾患	症例数(人)
脳血管障害	72
神経変性疾患	249
(うちパーキンソン病)	(140)
(うち筋萎縮性側索硬化症)	(89)
脱髄・炎症性疾患	10
ニューロパチー	36
ミオパチー	31
神経筋接合部疾患	6
脳炎・髄膜炎	1
てんかん	10
ミトコンドリア病	1
その他	38
小計	454
一般内科疾患/外傷	216
合計	670

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	101
脳波	54
筋生検	0
ボトックス療法	90
血漿交換療法	1
DBS（新規）	19(3)

■研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	6	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハ療法士、栄養士、MSW	4-10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週
退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜
病棟勉強会	医師、看護師、リハ療法士	10-20	不定期

・治験関連

治験	1件
受託研究	2件

■ 将来への展望

高齢化と社会的孤立、そして相対的貧困の問題は、現場の医療を複雑にしています。一方、これまでなかった神経筋難病の治療法があらたに開発されるといった明るいニュースもあります。当科では、つねに知見をアップデートして専門性を高く保ち、一方で生活ベースの包括的診療を提供していくよう心掛けたいと考えています。

初診の診断、急性期治療から慢性管理までと、前述のとおりバラエティに富む診療を提供できる当院の環境は脳神経内科医にとって非常にユニークで面白いものです。これがどうして働き手が少ないのかが悩みの種です。短期的展望としては、診療のみならず研究、発表をさらに頑張っ、適切に情報発信して魅力を伝えたい、一緒に働こうと全国からスタッフが集まってくるような病院にしたいと願っています。

■ 研究実績

・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰 厚生労働省行政推進調査事業補助金 (難治性疾患政策研究)

学会

1. Nyasthenia gravis Lambert-Eaton overlap syndrome(MLOS)の臨床像

第 64 回日本神経学会学術大会 2023/6/1 福留隆泰

2. ALS と封入体筋炎の鑑別に苦慮した 2 症例

第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会 2023/12/1 福留 隆泰

3. Gliosarcoma の一部検例

第 147 回県北神経懇話会 2023/11/17 永石彰子

4. 脳卒中の話

長崎川棚医療センター公開講座 2023/10/14 永石彰子

5. 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 ～病気の理解と日常生活について～

難病医療講演会 2023/11/12 永石彰子

6. 口腔内常在菌によると考えた化膿性脊椎炎を呈したパーキンソン病の一例

第 146 回県北神経懇話会 2023/5/16 林 信孝

7. 当院におけるパーキンソン病治療

第 148 回県北神経懇話会特別講演会 2024/1/25 林 信孝

和論文

なし

英論文

Tomoko Narita, Shunya Nakane , Akiko Nagaishi, Naoya Minami, Masaaki Niino, Naoki Kawaguchi, Hiroyuki Murai , Jun-ichi Kira, Jun Shimizu, Kazuo Iwasa, Hiroaki Yoshikawa, Yuki Hatanaka, Masahiro Sonoo, Yuko Shimizu and Hidenori Matsuo.

Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan

Ther Adv Neurol Disord.2023 Apr;16 ※本論文は令和4年度年報に掲載いたしましたが、発行日から今回の令和5年度年報に掲載することが妥当なため、再掲としました。ご了承ください。

(文責：脳神経内科 永石彰子)

診療部－循環器内科－

1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科 1 人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなり、また、心臓カテーテル検査も令和 3 年 6 月以降は施行できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきています。令和 2 年 8 月より心臓リハビリを開始しました。狭心症に対する冠動脈 CT や徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術に加え、心不全を中心とした循環器領域の診療を行っています。

2. 入院診療実績

入院総数 221 名

平均在院日数 20.1 日

ペースメーカー植込・電池交換術 8 件

3. 研修・教育

研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1 名

日本内科学会総合内科専門医 1 名

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士 1 名

教育・講演会

心臓リハビリ・心不全ミーティング(ミニ勉強会) 隔週水曜

CPX勉強会 R6年3月12日

4. 治験・共同研究

■分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』 Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者: NHO 京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predict REHOSPitalization in Chronic Heart Failure

研究責任者: NHO京都医療センター 循環器内科 井口守丈

・PREVENTION-HF

『高齢慢性心不全患者における肺炎球菌ワクチン接種とその後の心不全の臨床経過: 長崎におけるコホート研究』

研究責任者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 予防医療学分野 石見 拓

主たる研究実務担当者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 専門職学位課程 予防医療学分野 吉村 聡志

■治験 : なし

(文責: 循環器内科 二宮暁代)

診療部－代謝内科－

■診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対しては病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病療養指導に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士(看護師・栄養士)とチームを組んで集団指導(糖尿病教室)、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を開始し、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防のための療養指導を行っている。

■入院診療実績

・2023 年度入院患者数：63 名

・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10 コード	患者数	死亡数
1) 2型糖尿病	E11*	28	0
2) 1型糖尿病	E10*	5	0
3) 甲状腺腫瘍	D440	2	0
4) 熱中症	T678	2	0
5) 急性肺炎	J189	2	0
6) てんかん	G409	2	0
7) 尿路感染症	N390	2	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：3件

■研修・教育

・カンファランス

なし

・教育・講習

なし

■将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上を図っていききたい。また、外来での透析予防管理の件数増加やフットケアなどの療養指導の充実、外来インスリン導入のための体制づくりを推進していききたい。また、糖尿病性腎症をはじめとする糖尿病の合併症の早期発見と進展防止の取り組みを強化していききたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよう地域の医療機関との連携を強化していききたい。

■研究実績

・競争的研究資金の獲得

なし

・原著論文

なし

・学会発表

なし

・講演

- 1) <講演>「糖尿病の話」(代謝内科 木村博典) 長崎川棚医療センター健康公開講座、川棚、
2023.10.14

・座長

- 1) <座長>生涯教育講座「新しい2型糖尿病の薬物療法」(松本メディカルコミュニケーションズ 松本一成
先生) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2023.10.10

(文責：代謝内科 木村博典)

診療部－放射線科－

放射線科医長 中村 悟 令和6年5月14日

[1] 放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、胃透視(人間ドック)や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的に新しく高機能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポートシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。2名の常勤放射線科医(診断専門医)および2名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

[2] CT、MRI、RIの検査件数の推移

令和5年度のCTは3617(共同利用300)(←令和4年度3370共同利用202)件とやや増加した。

MRIは、2146(共同利用539)(←2251共同利用511)件とやや減少した。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは103(共同利用18)(←127共同利用10)件と減少した。

透視は、187(←152)と増加した。

放射線科外来(院外紹介)は、857(←723)と増加した。

[3] 令和6年2月に、骨密度測定装置が新たに設置され、これまでに、約20件(5/14/2024時点)の実績があった。月～木曜日の検査体制(2件/日)が整ったので、臨床の先生からの依頼増加が見込まれる。

[4] 時間内外画像診断

令和3年1月から、岩野先生の自宅に、iPadを設置し、mobileルーターを使った遠隔読影の環境を設置し、読影および電話での対応を実施している。通信速度がやや遅いが、画像診断に足る画像である。

また、令和4年から時間内外の読影で実施している大学からのsecond opinionで、診断に寄与している。

[4] 画像管理加算1,2

画像管理加算1は、単純写真で請求できるが、当院では胸部単純写真のみ実施し、一部の加算がとれる。

画像管理加算 2 は、CT, MRI, RI などで請求されるが、近年、放射線科学会の新たな申請基準が示され、昨年、当院 2 人の放射線科専門医の連名で、令和 6-7 年度の画像管理加算 2 の申請が受理された。

[5] 放射線科の現状と展望について

CT、MRI、RI 検査の読影 80%以上という画像管理加算 2 の維持は当分可能と思われる。CT や MRI の全 3D 処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。今後も外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

[5] 業績:論文

なし。

診療部－脳神経外科－

- (1) 入院症例数 88 名
- (2) 手術症例数 28 例

外傷

慢性硬膜下血腫 3

機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

脳刺激装置植え込み（両側） 3

脳刺激装置交換 12

てんかん

迷走神経刺激装置植込 1

迷走神経刺激装置交換 2

水頭症手術

シャント手術 1

その他

創傷処理 6

- (3) 剖検数 0

I. 論文業績

II. 学会発表

- 1) 委員会企画 2（分類・用語委員会）新しいてんかん症候群について考える：脳神経外科からみたてんかん症候群の意義と課題. 戸田啓介. 第 56 回日本てんかん学会学術集会. 2023 年 10 月 19 日

(文責：脳神経外科 戸田 啓介)

診療部－外科－

1.診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

2.入院診療実績

令和5年度には412名入院され、外科・呼吸器外科で121症例(全身麻酔105例、腰椎麻酔1例、局所麻酔15例)の手術が行われました。

●臓器別手術症例数

	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔
胃	10	---	---
小腸	2	---	---
結腸、直腸	45	1	---
胆嚢、総胆管	21	---	---
ヘルニア	17	---	1
呼吸器	4	---	4
その他	6	---	10
総数	105	1	15

※腹腔鏡下手術…56例

3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

(文責：外科 徳永 隆幸)

診療部－整形外科－

令和5年度は整形外科医2名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各1名の応援体制であった。

手術は95例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院1日平均患者数は16.5人と、昨年度の17.0人より減少していた。

外来1日平均患者数は11.2人と、昨年度の12.6人より減少していた。

(文責：整形外科 藤本 勝也)

診療部－総合診療内科－

■診療科の特色

当科は2019年6月に新設されました。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながら、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。特に高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を抱える患者さんが増加し、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。原因のわからない発熱、体重減少といった診断の確定していない患者さんへの診療も行います。院内感染対策チームへ参加し、抗菌薬適正使用、感染症対策への取り組みを行っています。

■スタッフ

○常勤3名

■教育、研修

○専門医

日本内科学会 総合内科専門医1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医2名

○認定医

日本内科学会 認定内科医2名

日本医師会 認定産業医1名

○院外講師

向陽高等学校看護専攻科 病態生理学1 感染症

■入院診療実績

○2023年度入院患者数552名 2022年度471名 (入院サマリーより作成)

入院患者数は、2022年度471名から552名と増加を認めている。入院患者層は、地域の実情を反映し、65歳以上の高齢者がその大半を占めている。上記入院診療以外にも、整形外科、外科で入院されている患者さんで内科疾患のサポートや退院調整（家族説明や退院先の相談）必要な場合、JNPさんと協力のもと併診を行っている。

■外来診療実績

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来の役割を担っている。2023年5月以降 COVID19 感染症は、5類感染症へと移行したことから、発熱外来は廃止し、COVID19 診断確定症例以外の発熱患者に関しては、日勤帯は内科救急当番医が診療を行う方針とした。COVID19 診断確定症例の紹介患者に関しては引き続き当科での診療を行っている。

■臨床研究

長崎医療センター総合診療科から協力依頼のあった「舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発と検証」の臨床研究を2023年3月31日まで行い当院では16例の症例登録を行った。

■将来への展望

入院となった疾患のみならず、患者背景を考えながらの治療方針の決定、アドバンスケアプランニング、ポリファーマシー（多剤内服）問題に対し多職種カンファレンスを開催し、取り組んでいく。

2024年度より、長崎医療センター総合診療科より更に常勤1名の派遣を確保できたため、常勤4名体制となる。これにより、更に多くの内科救急、外来、入院患者への対応を行うことが可能となる。院内の組織横断的に関わることのできる感染対策チーム、緩和ケアチームの活動時間を増やしていく予定。

■研究実績

○競争的研究資金の獲得

なし

○NH0 共同臨床研究

R5-NH0(感染)-03 グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証

○原著論文

なし

○学会発表

第341回 内科学会九州地方会

○吉原 聖智, 川原 知瑛子, 大野 直義

吃逆、体動困難、認知機能低下を主訴に診断に至った ACTH 単独欠損症の1例

(文責：総合診療内科 大野 直義)

看護部－理念・基本方針－

【理念】

私たちは“よりよく生きる”を支える看護を提供いたします

【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

看護部-目標評価-

看護部長 岡 ルミ

【スローガン】

「個別性のある看護」を実践しよう

【目標】

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 外部評価（病院機能評価）受審に向けたチーム医療の推進
4. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

【評価】

目標 1 については看護師師長会による「カンファレンス推進」「倫理観醸成」「看護展開の見える化」、副看護師長会による「倫理」「看護記録」のグループを作り活動した。看護の質向上のために必要な倫理感性については、それぞれの部署で倫理カンファレンスを実施。また、倫理的行動に関する他者評価表を作成し、管理者が評価を実施した。その結果、カンファレンスにおいては倫理的問題に気付くことが多くなり、倫理的感性を高めるための環境を整えることができてきた。しかし、管理者の他者評価において評価結果を個別にフィードバックは行ったが、取り組み後の評価を実施できなかったため、客観的な評価には至らなかった。

目標 2 については看護師長を中心にベッドコントロールを行い、施設基準を満たすことができていた。急性期一般病棟・地域包括ケア病棟・障がい者病棟が円滑に運用できるよう今後も医師や経営企画室と協働し取り組んでいく。

目標 3 については前述の看護師長会 3 グループと副看護師長会 2 グループが多職種と協働し、患者の「よりよく生きる」を支える医療とは何かを検討しながら、それぞれの領域についてチーム医療を実践できた。

目標 4 については Acty ナース Ver.2 を基に教育計画を立案し、予定通りに研修を実施することができた。しかし、研修での学びを OJT の中でどのように活かし、実践できているかの評価が十分にできていないため、今後の課題である。CREATE については学習・実践内容について、どの看護管理業務で学ぶことが可能か検討を行った。今後、教育プログラムを作成していく。

看護部－3階病棟－

看護師長 蛭原 勇治

基本方針

1. 入院時より退院後の生活を見据えた個別性のある看護について実施します
2. 各病期にある患者とそれを支える家族について、カンファレンスを実施しケアの充実を目指します
3. 教育及び教育支援を行い看護職者として常に学習を積み成長し続けます

目標

1. 根拠に基づいた看護実践と看護の可視化
2. 看護必要度、診療点数を意識した病床管理や入退院支援
3. チーム医療の推進・情報共有の円滑化
4. 看護のやりがいを感じる職場環境や自己研鑽し続ける風土作り

I. 病床数構成 総病床数：60床

外科、循環器内科、脳神経外科、整形外科、消化器内科

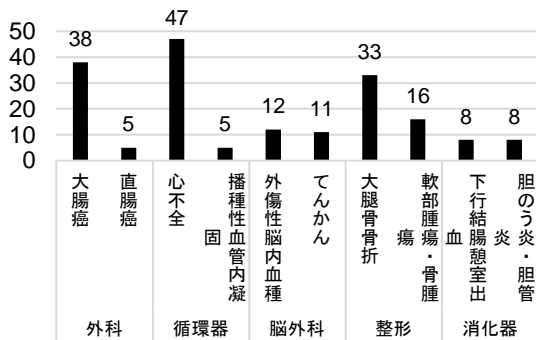
II. 患者の動向（2023年度）

入院患者数	968名
一日平均患者数	45.50人
平均在院日数	15.70日
平均年齢	75.5歳
病床利用率	75.9%
CP使用率	20.6%
看護必要度	35.16%
手術件数	218件

Ⅲ. 看護職員数（2023年4月1日現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	26名
看護助手	1名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



Ⅴ. 看護

1. 学習会やシミュレーションを実施し、経験年数に関係なく必要な看護が提供できるよう、知識や技術習得に努めた。また、研修報告や事例検討、カンファレンスを行い知識や技術の共有を行った。看護記録については、タイムリーな看護記録の記載や病状説明への同席、患者や家族の反応記録記載の徹底できた。
2. 地域包括ケア病棟や外来、地域連携室と協力し入院や転棟調整など病床運営を積極的に実施した。その中で看護必要度の施設基準超えを意識した調整を実施することができた。また看護必要度の評価精度の向上のための学習会や定期的な監査を実施し、平均 35.16%と施設基準超えを達成できた。退院支援についても、医師や地域連携室、理学療法士など多職種で情報を共有し、入院時より退院に向けて必要な支援や方向性の確認を行った。退院後に関わる関係者も参加した退院前カンファレンスの実施や、退院後の生活をイメージできるよう患者教育パンフレットを使用した、患者・家族指導を実施した。
3. 診療科カンファレンスやリハビリカンファレンス、栄養カンファレンスなど多職種で情報を共有し方向性を検討する場を新たに設定した。看護師が患者や家族に一番近い存在として情報の提供やコーディネートを行った。
4. 立場に関係なくコミュニケーションが取りやすい職場風土づくりを行った。また、超過勤務削減のためリーダーを中心に業務調整を実施できた。年次休暇についても平均 9 日/年割り振ることができた。また業務改善を実施し、業務の効率化を行ない、委員会や研修準備など出来る限り活動時間の割り振りを行った。

VI. 研修・講習会等

- ・蛭原勇治：看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
- ・永田真理子：実習指導者講習会
- ・山口結：認知症ケア研修
- ・松本京子：がんチーム医療研修会
- ・久保美沙希：NST 専門療法士実地修練実習
- ・小田祐介：患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会

看護部－4 階病棟－

看護師長 石丸 亜紀奈

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質の向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 固定チームナースングを定着させ、患者さんの「自分はどうしたい」、家族の「患者にこうしてあげたい」を実現させる退院支援・看護の提供ができる
2. 病床利用率 96%以上(57.6 床以上)、一般病棟転棟患者割合 6 割未満、在宅復帰率 72.5%、地域包括ケア看護必要度評価 12%を意識した病床管理ができる
3. 業務内容の見直しを行い、業務改善の推進と業務の効率化を図る

I. 病床数構成 総病床数：60 床

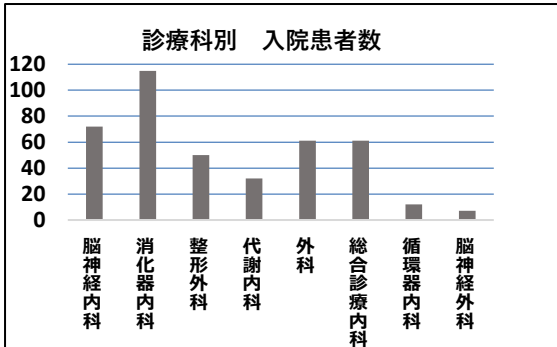
II. 患者の動向（2023 年度）

入院患者数	410 名
一日平均患者数	56.2 名
平均在院日数	23.2 日
平均年齢	76.3 歳
病床利用率	93.7%
看護必要度	16.5%
在宅復帰率	82.3%

Ⅲ. 看護職員数（2023年4月1日 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	26名
看護助手	2名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



Ⅴ. 看護

1. 患者、家族の意向確認については患者・家族へ希望の確認を行い、カンファレンスを通して多職種で情報共有を行いながら、看護の提供ができた。カンファレンスを元に、自宅退院を目指して外出支援を実施や、退院後訪問について一部再開し、退院支援の充実を図ることを目指し取り組むことができた。
2. 地域連携室、一般病棟看護師長と毎日病床会議を実施。地域連携室やリハビリなどと週に1回多職種カンファレンスを開催した。病床利用率 93.7%、一般病棟転棟患者割合 53.1%、在宅復帰率 82.3%、地域包括ケア看護必要度評価は 16.5%であった。
3. リーダー看護師の業務内容の検討を行い、業務内容の補完体制を整え、カンファレンス、環境整備の徹底など業務改善を行った。

Ⅵ. 研修受講

石丸亜紀奈(看護師長)：医療安全対策研修Ⅰ

松藤裕太(副看護師長)：令和5年度看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修、

令和5年度患者の意向を尊重した意思決定のための
相談員研修会 (E-FIELD)

野上真里：令和5年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

別府遵一：令和5年度入退院支援に関する実践力向上研修

看護部－6階病棟－

看護師長 今里 純子

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院機能評価受審に向けたチーム医療の推進
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 患者にとって“より良く生きる”とは何かを考え、患者・家族の思いに寄り添い、患者・家族から得た情報を共有し、根拠に基づいた看護を提供することができる。
2. 多職種カンファレンスを充実させ、患者中心の医療を推進する
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

I. 病床数構成 総病床数： 55 床

一般病床 50 床 COVID-19 病床 5 床

II. 患者の動向（2023 年度）

入院患者数	738 名
一日平均患者数	43.4 名
平均在院日数	20.5 日
平均年齢	76.3 歳
病床利用率	79.2%
新型コロナ患者数（延べ人数）	544 名
OP 件数	9 件
CP 使用率	13.5%

Ⅲ. 看護職員数（2023年4月1日 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	32名
期間職員	1名
業務技術員	3名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

2022年4月より総合診療内科、脳神経内科の混合病棟となり、主にパーキンソン病やALS等神経筋難病患者の診断・加療や、リハビリ目的、パーキンソン病のDBS調整などの入院受け入れを行っている。また、家族の介護負担を軽減するためにレスパイト入院受け入れをおこなっている。陰圧室を有しておりCOVID-19罹患患者の受け入れも行っている。2022年10月より障害者施設等7：1入院基本料に変更となり脳神経内科の長期入院患者が増えた。

Ⅴ. 看護

1. 毎週1回ケースカンファレンスを行い、受け持ち患者の情報整理、患者家族の思いの確認を行い看護計画の見直しを行った。受け持ち看護師としての意識付けにもつながった。
2. 多職種カンファレンスや倫理カンファレンスのシステムを整え、患者にとって最善のケアについて検討し実践に繋げることができた。また、デスカンファレンスを行いケアの振り返りができた。
3. レベルⅠ～Ⅲ研修生においてはチームで育てる環境を整え、意図的に受け持ち患者を選定、事例検討を行い看護過程の展開につなげることができた。また、レベルⅠおよび既卒者において、MEに協力を得て人工呼吸器の学習会を計画的に行い、呼吸器装着中の患者ケアを実践できるようになった。

Ⅵ. 研修受講

- ・今里純子（看護師長）：令和5年度メンタルヘルス・ハラスメント研修、令和5年度患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会（E-FIELD）
- ・平山将（副看護師長）：看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
- ・竹ヶ原陽子：令和5年度実習指導者講習会
- ・廣田優美：栄養サポートチーム（NST）専門療法士研修
- ・松本真美：令和5年度神経・筋難病看護エキスパートナース研修
- ・富永麻希：令和5年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

看護部－8 病棟－

看護師長 穎川 俊也

基本方針

1. 患者家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 外部評価受審に向けたチーム医療の推進
4. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 根拠に基づいた看護過程(介護過程)の展開を実践できる
2. 患者・自分自身を守る行動を常に考え実践できる
3. 専門的知識・技術・態度を自ら習得できる人材を育成する

I. 病床数構成 総病床数：60 床

(療養介護サービス対象病床：54 床)

II. 患者の動向 (2023 年度)

入院患者数	26 名
一日平均患者数	56.2 名
退院患者数	38 名
平均年齢	67.3 歳
病床利用率	93.6%
手術件数	9 件
人工呼吸器使用数	44.0 台
療養サービス対象数	48.8 名

Ⅲ. 看護職員数（2023 年度 4 月 1 日現在数）

看護師長	1 名
副看護師長	3 名
看護師	35 名
非常勤看護師	3 名
療養介助専門員	15 名
療養介助員	1 名
業務技術員	2 名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

筋ジストロフィー：22 名 ALS：14 名

パーキンソン：9 名

上記以外の神経筋難病：10 名

その他：3 名

Ⅴ. 看護

1. 根拠に戻つた看護過程(介護過程)の展開を実践できる

- ・カンファレンス係を中心に週 2 回のカンファレンスを計画し、カンファレンスでのケアの検討、看護計画の追加修正を行った。
- 週 1 回多職種カンファレンスを開催し意見交換を行いながらケアの検討を行った。
- ・介護計画については介助員研修で介護過程展開について学習し、受け持ち患者の介護計画が根拠に基づいた計画となるように指導を行った。

2. 患者・自分自身を守る行動を常に考え実践できる

- ・人工呼吸器チェック時の指差呼称の徹底や、患者のベッドサイドを離れる際のテストコール実施が定着してきているため、人工呼吸器に関するインシデントは 1 件、ナースコール設置に関するインシデントは 1 件と減少している。患者誤認、内服未投与など確認不足によるインシデントが 5 件発生しており継続した確認行動の指導が必要。

3. 専門的知識・技術・態度を自ら習得できる人材を育成する

- ・人工呼吸器については ME と連携し人工呼吸器・装着患者の看護について勉強会を実施している。

・2回／年接遇チェックリストを用い自己・他者評価を実施した。虐待防止の視点からスタッフ同士の言動で気になる点は注意しあえる職場風土の醸成に努めている。

VI. 看護研究・学会発表・研修受講

前海孝徳(副看護師長)：令和5年度実習指導者講習会

大平千絵(副看護師長)：令和5年度療養介護サービス研修

大平千絵(副看護師長)：令和5年度障害者虐待防止セミナー

大平千絵(副看護師長)：看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修

潟手美苗：患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会(E-FIELD)

看護部－手術・中材－

看護師長 松尾多美子

基本方針

1. 各部署と連携を図り、安全で質の高い手術医療を提供する
2. 安全で専門性の高い内視鏡検査・治療を提供する
3. 院内で使用する医療器材を管理し、安全で確実な物品供給を行う

目標

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことが出来る
2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める
3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の向上に貢献する

I. 病床数構成 手術室 3 室（BCR1 室）

内視鏡室 2 室

II. 患者の動向 (2023 年度)

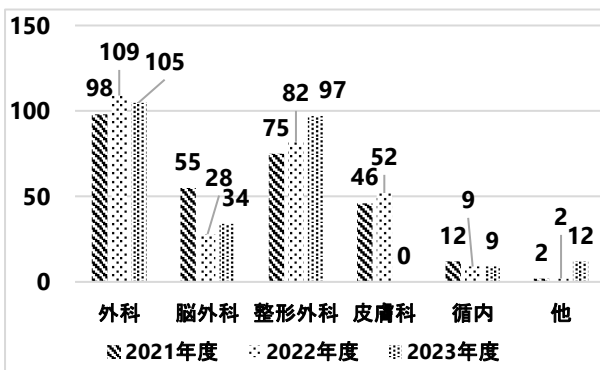
月平均手術数	21.4 件
手術平均年齢 (1 月)	69.5 歳
緊急手術件数	28 件
全身麻酔症例数	117 例
麻酔科麻酔件数	69 件
自家麻酔症例数	188 件
月平均内視鏡検査数	85.7 件
緊急内視鏡検査数	51 件

Ⅲ. 看護職員数 (2023年4月1日現在数)

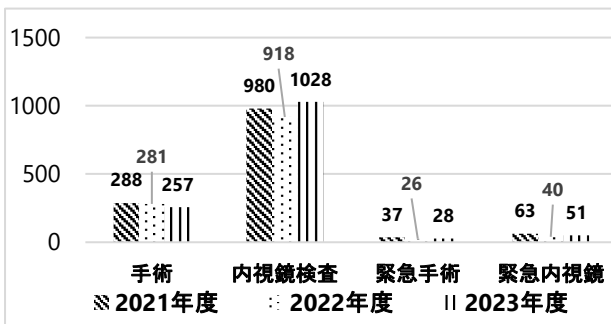
看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	8名
非常勤看護師	1名

Ⅳ. 手術・検査実施件数

1. 診療科別手術件数推移



2. 手術・検査件数推移



Ⅴ. 看護

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことが出来る

- 1) 手術手順書・内視鏡検査手順書を随時更新し、直接介助のみでなく外回り業務手順の追加を行い、介助前に手順書を確認することで準備・介助とも個人差は減少している。今年度より外科手術の術前カンファレンスに参加し、意見交換することで、症例への参加意欲の促進と共に、手術準備などに活かすことが出来ている。症例数の少ない手術や検査は手順書に沿ってシミュレーション教育を行い、緊急対応に備えている。

2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める

1) 院外研修参加は手術時褥瘡対策 WEB 研修に 9 名参加。部署学習会は麻酔看護、体位固定、内視鏡検査手技など実践につながる専門知識・技術の習得を図った

3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の充実に貢献する

1) 自部署業務以外はトリアージ・発熱外来対応、病棟応援を積極的に行い、入院・外来患者の診療補助・看護ケアの充実に貢献している。

救急外来夜勤時も救急外来対応時間以外は病棟の患者ケアの応援を行っている

4. その他

中央材料室洗浄評価、内視鏡カメラ洗浄評価を開始した。今後定期的に継続し、安全性を確認していく。

VI. 看護研究・学会発表

今年度なし

看護部－外来－

看護師長 毛利 由加

基本方針

1. 予約診療を基本とし、各診療科・地域連携室との連絡・調整を密に行い迅速でスムーズな診療が受けられるよう配慮する。
2. 常に患者へ目と心に向け、細やかな対応による診療介助を行い、患者の不安や苦痛軽減に努める。
3. 患者のプライバシーが守られるよう、環境への配慮・個人に関する情報の管理を徹底する。
4. 患者に安心して気持ちよく受診していただけるよう清潔で安全な環境整備に努める。
5. 外来で行われる検査や手術についてクリティカルパスやパンフレットを使用し、患者の十分な理解と納得が得られ、安全で確実な看護実践を目指す。
6. ネットワークを活用し地域に根差した質の高い医療の提供を目指す。

目標

1. 倫理カンファレンスの定着により、倫理感性の醸成及び意思決定支援の推進を図る。
2. 他部門、多職種との連携を強化し、在宅支援、継続看護につなげる。
3. 外来における看護記録の必要性を理解し、看護記録の充実及び強化を図る。
4. 根本原因分析の実施により医療安全に対する意識の向上を図る。
5. 外来待ち時間調査を実施し、問題把握・検討、改善策を実施する。

I. 診療科構成

脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、歯科、乳腺外科、呼吸器内科

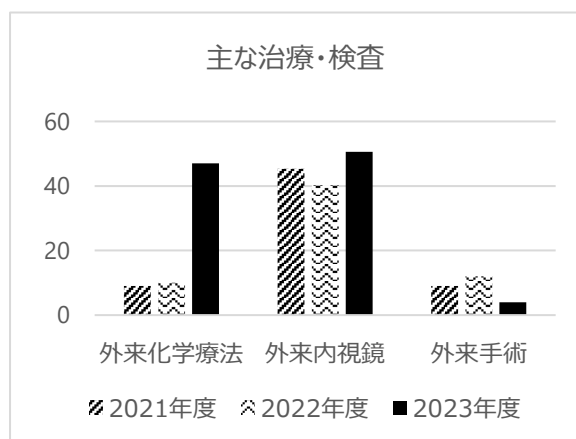
II. 患者の動向（2023年度）

1日平均外来患者数	111.4名
新患者数（平均）	253.4名
延患者数（平均）	2256名
紹介患者数（平均）	176.6名
逆紹介患者数（平均）	190.4名
救急患者数（平均）	175.1名
救急車台数（平均）	58.1件

III. 看護職員数（2023年4月1日現在数）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	5名
非常勤看護師	5名
外来クラーク	2名
看護助手	1名

IV. 主な疾患・治療・検査



外来化学療法（平均）	3.9件
外来内視鏡（平均）	51.6件
外来手術（合計）	5件
皮膚生検（合計）	23件

V. 看護

1. ACP、意思決定支援等患者カンファレンス、倫理カンファレンスを 9 件実施し、患者のケアの充実へ繋がった。
2. 退院患者の継続看護依頼フローを整え、依頼 21 件/月に増加、依頼患者の 100%に在宅支援介入することができた。
3. 入院時の説明に同席し、反応や同意の確認と看護記録記載の充実を図り、緊急入院患者への記載率 72%へ上昇した。また IC 同席を図るため、環境を整えることで医師からの依頼件数も増加している。
4. インシデント発生件数 22 件、インシデントカンファレンス 100%実施し再発予防、体制強化に努めた。
5. 6 月外来待ち時間調査を実施し、待ち時間の実態を把握及び、予約枠の調整等を行った。

VI. 研修受講

毛利由加（看護師長）：令和 5 年度看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修

沖永翼看護師：令和 5 年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

看護部－訪問看護ステーション－

訪問看護ステーション看護師長 松本 深雪

基本方針

1. 利用者・ご家族の皆様の思いを尊重し、安心・安全で良質な訪問看護を提供します
2. 養気軒の精神で、利用者・ご家族中心の全人的ケアを提供します
3. 利用者・ご家族の権利・維持を尊重し、同意に基づき良質な訪問看護を提供します
4. 常に知識・技術・人格を磨き、自己研鑽に努め、明るく温かで安心がもてる看護を提供します
5. 医療・保健・福祉など地域関係機関との細やかな情報交換に努め、地域に開かれたステーションを目指します

目標

1. 倫理的視点を持ち利用者・家族の思いや希望を汲み意思決定につながる情報提供や看護の提供、入院時から病棟と連携し、在宅復帰につながるよう働きかけることができる
2. 経営的課題に関心を持ち、担当する分野の適切な訪問管理ができる
3. 訪問看護における実践能力の向上と人材育成を行い、やりがい感が維持できる

I. 総利用者総数：31名 《※令和6年1月までの運用、以後事業を移管した》

(指定申請)

指定訪問看護事業者・介護保険指定事業者難病医療費助成・生活保護医療機関指定

指定自立支援・労災保険指定訪問看

II. 患者の動向（2023年度1月まで）

利用件数	2183 件
1 か月平均利用件数	218 件
1 か月平均利用者数	23 名
1 か月平均訪問看護件数	184 件
1 か月平均訪問リハビリ件数	35 件
新規利用者数	8 件
緊急訪問	19 件
死亡利用者数	8 件
退院時共同指導加算	8 件
退院時支援指導加算	4 件
ターミナルケア	0 件

III. 看護職員数（2023年4月1日現在数）

看護師長	1 名
看護師（登録ナース）	8（6）名
非常勤看護師	1 名
事務	1 名
理学療法士・作業療法士	各 1 名

IV. 主な疾患

1. 悪性腫瘍（大腸癌、肺癌、胃癌、上顎癌）
2. 神経難病（パーキンソン病、多系統萎縮症）
3. 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）
4. 心疾患（慢性心不全、高血圧）
5. 呼吸器疾患（間質性肺炎、気管支喘息）
6. その他（糖尿病、認知症）

V. 看護の概要

1. 看護の特徴

1) 看護の特徴

慢性疾患から終末期まで在宅で療養生活を送る人の思いに寄り添い、利用者とその家族の意向に沿えるよう、かかりつけ医と連携し訪問看護を実践している。主に、健康状態の観察や日常生活援助、内服管理、リハビリ、終末期看護等の看護ケアを提供している。短期間での訪問導入や終末期看護、困難事例についても介入し、住み慣れた地域・自宅でその人らしく療養生活を送ることができるよう支援している。夜間、休日など 24 時間対応体制で対応している。

2. 教育

1) スタッフ教育

東彼 3 町の社会福祉協議会主催による在宅療養事例検討会の参加

事例検討や倫理カンファレンスの実施

2) 学生教育

嬉野看護学校 12 名 24 日間受け入れ

武雄看護リハビリテーション学校

8 名 16 日間受け入れ

3) 研修受講・講義・連絡会

・東彼 3 町社会福祉協議会主催事例検討会

・Web セミナー神経難病患者の在宅療養支援や環境調整の取り組み

・Web セミナー嚥下障害の対応と最近の話題

・看護実践能力開発講座

・令和 5 年度在宅医療推進セミナー

薬剤部

薬剤部長 阪元 孝志

1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例、副作用症例の収集及び情報共有並びにプレアポイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化、退院時薬剤情報連携加算への取り組み、薬剤総合評価調整加算への取り組み、がん患者指導管理料「八」の算定）④年次休暇取得の推進（ワークライフバランスを充実させる）掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。

2. 調剤業務

（1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや難治性神経・筋疾患(神経難病と筋ジストロフィー等)病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着ける表示や医師がオーダ入力する際に注意喚起のメッセージが表示される工夫も実施している。

【処方せん枚数】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院	20,382	22,642	24,382	23,997	22,889
外来院内	1,214	1,303	1,459	1,977	1,026
外来院外	22,220	19,418	18,814	18,614	17,471

（2）注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注

射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出しており、実施時にバーコードによる認証を行うシステムとなっている。令和 2 年度は「取扱いに注意を要する薬剤マニュアル」を医療安全管理室と共同で作成、令和 3 年度は「病棟での向精神薬管理手順」の改訂、令和 4 年度は「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂、令和 5 年度は「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂、「薬剤管理指導業務マニュアル」の改訂、「薬剤総合評価調整業務マニュアル」の改訂、「がん化学療法に関わる規程・手順書」の改訂及び「病棟薬剤業務手順書」の改訂を行った。

【注射せん枚数】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院	23,310	25,657	27,904	27,231	30,489
外来	1,701	1,694	1,515	1,323	1,594

3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊な T P N 調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。令和 5 年度は TPN の業務拡大をはかり、11 件/年（2022 年）から 243 件/年（2023 年）と大幅にアップし、また「TPN 無菌調製マニュアル」の改訂を行った。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。

【無菌調製件数】

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
抗がん剤	入院	74	99	83	88	67
	外来	59	35	10	8	47
T P N	入院	12	87	82	11	243

4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017

年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでおり、報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については情報共有を行っている。

【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
56	27	40	54	38

5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。2023年度の後発医薬品へ切り替え品目数として3品目と少なかったが、購入額を約270万円削減（薬価換算）できた。来年度においても高額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について随時提案して、病院経営に貢献していきたい。

今年度も昨年度に続き複数の製薬会社で医薬品回収および供給停止などが相次ぎ、その対応に苦慮した。患者に迷惑をかけることがないように日頃より情報のアンテナを張り、在庫管理を気に掛けていきたいと考える。

【医薬品採用品目数】

2022年度		2023年度	
内用薬	443（後発品：194）	内用薬	443（後発品：195）
外用薬	163（後発品：60）	外用薬	162（後発品：58）
注射薬	361（後発品：100）	注射薬	357（後発品：98）
合計	967（後発品：354）	合計	962（後発品：351）

6. 病棟業務および入院支援

病棟薬剤業務実施加算では、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。禁忌薬やアレルギー歴の確認、肝腎機能に応じた処方提案、持参薬に基づく当院処方の提案や処方薬に問題はないか確認を行っている。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査を必要とする薬剤に対して検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、安全使用を念頭に実施してきた。退院時指導については、退院後の服薬管理に役立てられるよう今後も努めていきたい。

2018年度より、タスクシェアリングのひとつとして薬剤部が入院支援センターにおいて手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行い対応している。

2023年度からは薬剤管理指導料の算定はできないが、地域包括ケア病棟での薬剤管理指導に積極的に取り組んでいる。

【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
薬剤管理指導 (ハイリスク薬)	4,115 (1,970)	4,425 (1,639)	4,977 (1,991)	5,042 (2,281)	4,311 (2,284)
退院時薬剤情報 管理指導	686	608	686	127	84

【入院支援センター薬剤師関与件数】

2020年	2021年	2022年	2023年
210	203	197	187

治験管理室

薬剤部長 阪元 孝志

【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症〈以下、ALS〉、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）2名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	阪元 孝志
治験コーディネーター	薬剤師	金澤 絵莉
	薬剤師	樋口 ゆり
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	白石 剛
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

【治験実施状況】

治験の実施体制を 2003 年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。

現在契約中の治験では実施症例に結びつけることができなかったが定期的な被験者スクリーニングによる候補症例の選定を継続して行った。また、GCP 省令に対応するため治験取扱規程を改定した。

2024 年度は脳神経内科領域で新たな治験の導入ができるよう調査を行っており、今後も製薬会社からの情報収集に努めていきたい。

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
請求金額（円）		2,653,088	2,252,646	1,972,762	2,225,960
新規	治験課題数	1	1	0	0
	契約症例数	1	1	0	0
	実施症例数	1	0	0	0
	実施率	100%	0%	0%	0%
継続	治験課題数	1	3	3	2
	契約症例数	1	9	4	4
	実施症例数	1	8	3	3
	実施率	100%	89%	75%	75%

【臨床研究において積極的に行っていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

【今後の方針】

本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、国立病院機構内外の共同研究および院内で独自に計画された臨床研究の推進・支援を行う。

既存契約中の脳神経外科「てんかん」領域の治験において、長期継続試験から製造販売後臨床試験へ契約を新たに締結、また、脳神経内科領域での新規治験の導入を予定しており 1 例でも多くの症例登録できるように努めていきたい。

今後も研究者だけでなく組織としても高い見識と運用能力が必要とされるため職員に臨床研究 e-ラーニング研修の受講継続を勧めていく。

診療放射線科

診療放射線技師長 中尾 徹弘

【概要】

診療放射線科は、医師 2 名、診療放射線技師 6 名と助手 1 名で構成されており、CT・MRI の最新の撮影装置を用いた画像診断や核医学検査等の業務を行っている。放射線機器については 2 月に骨密度測定装置が新規で設置された。骨粗しょう症の診断から骨折リスクの判定まで診療に大きく役立つのではないかと期待している。今後も引き続き医療安全を考慮した保守点検を実施し、神経難病の患者から救急や発熱外来患者まで幅広く対応できるよう日々研鑽し、質の高い画像情報を提供していきたい。また、地域連携病院との共同利用も促進する。

【目標】

- ① 安全で良質な地域医療の実践
 - ・ 職種間の連携強化とチーム医療の充実
 - ・ 検査の説明や相談、同意に基づく納得と信頼の医療
- ② 医療安全及び感染対策の強化
 - ・ インシデント報告の充実、医療安全対策の構築
 - ・ 感染対策の徹底
- ③ 健康増進への環境整備
 - ・ 可能な範囲内で年休取得を推進
 - ・ 快適な職場環境の形成（メンタルヘルスケアへの取り組み）
- ④ 健全経営への活動
 - ・ 経費節減に努める

【施設基準】

画像診断管理加算 2、報告書管理体制加算

【資格】

第 1 種放射線取扱主任者 1 名、第 1 種作業環境測定士 1 名、衛生工学衛生管理者 1 名
X 線 CT 認定技師 1 名

【業績】

学会発表、論文業績等なし

【個人被ばく線量（実効線量）】

2023年3月1日～2024年2月29日

医師・看護師の最大値は透視での被ばく、技師の最大値はCT患者介助での被ばく。

法令限度の被ばく線量（平均20mSv/年）を超える従事者は無し

単位 mSv

職種	人数	平均値	最大値	最小値
医師	11	0.1	0.9	0
放射線技師	6	0.2	2.6	0
看護師	11	0.1	0.8	0
臨床工学技士	2	0	0	0

【件数実績】（共同利用件数）

年度	CT	MR	RI	一般撮影	透視
2021	3913 (329)	2357 (623)	144(12)	6203	158
2022	3370 (202)	2251 (511)	127(10)	5821	152
2023	3617 (300)	2146 (539)	103(18)	6090	187

臨床検査科

臨床検査技師長 石原 幸治

I. 概要

スタッフは科長以下、9名の臨床検査技師が検体検査・微生物・生理検査の3部門に分かれ業務を行っている。R5年度の異動は3名（副技師長1、技師2）であった。各種認定資格取得者を配置し、迅速かつ精度の高いデータ提供に努めている。異動や欠員時のカバー体制に備え、部署間のサポート体制もより強化した。

目標は「働きやすい職場環境づくり」を第一に挙げた。特にメンタルヘルスケア、「報・連・相」のしやすい風土作りが職場で取り組む課題全ての根幹と考え、年間を通して取り組んだ。

COVID-19 関連検査に関しては1,000件/月以上（ピーク時には2,000件/月に迫る）続いた依頼件数も感染症分類5類への移行を機に大幅に減少、以後100件/月前後で推移している。

機器については輸血検査機器が10月に更新された。他、導入後10年以上経過した古い機種が3台（超音波検査機器：19年目、血糖測定機器：14年目、HbA1c測定機器：14年目）稼働していることが不安要素ではある。特に超音波検査機器はスペック的に問題があり（画質・計測等）、修理不能機種でもあるため、早めの更新が望まれる。

【令和5年度目標】

1. 働きやすい職場環境づくり
2. 検査の質向上
3. 医療安全の強化

【スタッフ】

科長（脳神経外科部長兼任）	1名
技師長	1名
副技師長	1名
主任	3名
技師	4名

【認定資格取得者】

資格名	取得者数
細胞検査士（国内、国際）	1名
認定血液検査技師	1名
認定心電検査技師	2名
超音波検査士（循環器）	4名
”（消化器）	3名
”（体表臓器）	2名
緊急臨床検査士	1名
有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質等作業主任者	1名
毒物劇物取扱責任者	1名

II. 状況

1. 外部精度管理

公的（日本医師会、長崎県医師会）精度管理、メーカーサーベイ等、外部精度管理調査を受審し、検体検査の精度管理に努めている。

【日本医師会精度管理結果】

	評価評点	C 評価	D 評価
2021 年度	98.7	0	0
2022 年度	99.2	0	0
2023 年度	97.3	0	0

2. 件数実績

【検体検査】（入院+外来）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
検体検査総数（入院+外来）	309,566	311,528	307,762
一般	9,343	9,416	9,551
血液	39,110	35,445	35,661
生化学・内分泌	234,071	238,294	236,576
免疫	21,980	24,048	16,683
微生物	5,061	4,324	5,099
その他	1	1	0
外部委託	4,351	4,351	4,192

【COVID-19 検査】（PCR、TRC、ID NOW）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
入院	1,441	2,362	752
外来	4,840	6,557	1655
職員	6,136	7,032	0

【生理検査】（入院+外来）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
生理検査総数（入院+外来）	5,793	5,779	5,804	
超音波検査 内訳	心臓	1,107	909	865
	頸動脈	229	243	206
	腹部	414	427	393
	乳腺	49	46	69
	甲状腺	166	158	155
	下肢静脈	220	238	196
	体表、その他	134	174	91

3. 業績等

検査科内での勉強会を月 1 回実施。

学会発表、論文等はなし。

リハビリテーション科

理学療法士長 今村奈那

《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションの提供をめざします。

《目標》

- 1) 包括病棟のリハビリ基準を達成し、病棟機能の維持を図る
- 2) 診療報酬に基づいた適正な診療を実施する
- 3) リハビリテーション実績の向上に取り組む
- 4) 他部門との連携強化を図り、質の高いリハビリテーションを提供する
- 5) 感染対策や医療安全について理解し、安全なリハビリテーションを提供する
- 6) 学会への積極的な参加・発表など自己研鑽を図る

スタッフ

リハ科医長(兼任) : 1名

定員 理学療法士 : 10名 作業療法士 : 5名 言語聴覚士 : 3名

非常勤職員(助手)1名

施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器疾患リハビリテーション料 (I) 呼吸器疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

週間スケジュール

- ・神経内科病棟カンファレンス (毎週金曜 15:00～)
- ・総合診療内科カンファレンス(毎週火曜 9:15～、木曜 9:00～)

・心臓リハビリテーションカンファレンス（隔週水曜 16：30～）

・NSTラウンド（毎週木曜 15：00～）

・口腔ケアラウンド（毎週木曜 15：00～）

主な対象疾患と特色

対象疾患：神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後、心不全

特色：治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者に対して病期に応じた対応、脳卒中・整形外科疾患等に早期リハビリを実施している。がん・神経・筋疾患患者への呼吸リハビリテーション、摂食・嚥下障害に対する摂食・嚥下リハビリテーション、神経筋疾患患者への意思伝達装置の調整、心臓リハビリテーションを実施している。地域包括ケア病棟のリハビリテーションを有し、自宅退院を目指し対象集中的なリハビリテーションを実施している。2023年度から外来心臓リハビリテーションを開始、2024年3月から週2回対応している。

2023年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1日平均単位
理学療法	15,280	30,398	15.4
作業療法	8,354	15,296	15.4
言語聴覚療法	疾患別：6,467 摂食機能訓練：0	9,740	15.7
訪問リハビリテーション	339	678	

※訪問リハビリテーション：2024年1月までの実績

施設内活動への参加状況

管理診療会議、月次評価会議、医療安全部会、医療安全推進部会、NST委員会、療養介護運営委員会、ICT部会など

研究・発表活動

【講演】

1) 学会名：第 77 回国立病院総合医学会（第 56 回 塩田賞受賞講演）

会期：2023 年 10 月 20 日～21 日 会場：広島

演題：「脳卒中ケアユニット入院患者の ADL 動作に対するリハビリテーションスタッフと看護師の FIM 評価の比較」

演者：牧園征也

【学会発表】

1) 学会名：第 28 回日本基礎理学療法学会学術大会

会期：2023 年 12 月 2 日～3 日 会場：広島

演題：「膝蓋上嚢内組織に着目し、TKA 後の膝関節屈曲制限因子の検討をした一例 ～超音波診断装置及び膝関節鏡の所見から～」

演者：森川憲人

2) 学会名：第 6 回日本理学療法管理学会学術大会

会期：2023 年 11 月 11 日～12 日 会場：東京

演題：「理学療法分野の知識習得における大規模言語モデルの有効性の検証」

演者：山田竜一郎

【座長】

1) 学会名：第 77 回国立病院総合医学会

会期：2023 年 10 月 20 日～21 日 会場：広島

担当セッション：口演「神経・筋疾患」

座長：山田竜一郎

【臨床研究】

- 1) 研究課題名：「フレイル・サルコペニアを合併する慢性呼吸不全患者に対する新たな介入戦略の構築」（レジストリ研究）

研究責任者：玉木彰（兵庫医科大学リハビリテーション学部教授）

当院研究責任者：山田竜一郎

【査読】

- 1) 学会名：第 33 回長崎県理学療法学会大会

会期：2023 年 9 月 2 日 会場：長崎

査読者：山田竜一郎

- 2) 学会名：九州理学療法士学会大会 2023

会期：2023 年 11 月 25 日～26 日 会場：熊本

査読者：山田竜一郎

【新規資格取得】

福川愛子：心不全療養指導士

牧園征也：心不全療養指導士

齊藤圭祐：呼吸療法認定士

山田竜一郎：医療経営士

連休等の対応

長期連休は交代で出勤（連日ではない）

栄養管理室

栄養管理室長 金子友美

1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）計2名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チーム、緩和ケアチームにも参画した。食事提供などの給食管理業務は令和4年度より全面委託で運営している。

2. 業務実績

①食事サービス

献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。その中で毎月行事食として季節に合わせた食事の提供を行い、献立内容の充実や特別治療食への提供を拡大した。また患者から希望が多かったメニューの導入を図り、食事満足度を高める工夫を行った。そのため、患者への食事アンケートでは、多くの方より「食事に満足している」という意見を頂いた。

今年度より常食小児食で行っている選択メニューの中で新メニューを取り入れ、提供した。患者からおいしかったなどご意見もいただき、今後も新たなメニューの導入を検討している。

2023年度行事食写真



お月見



紅葉御膳



節分

2023年度選択食新メニュー



オムライス



瓦そば風素麺



鶏飯

②栄養食事指導件数

2023年度個人栄養食事指導は735件実施。指導疾患は糖尿病、心臓病、高血圧症が多かった。集団栄養食事指導は現在行っていない。

【栄養食事指導件数】

個人指導				合計
算定		非算定		
入院	外来	入院	外来	
462	127	146	0	735

【管理栄養士による栄養指導代行入力実施件数】

診療科	提案件数	診療科	提案件数
脳神経内科	80	整形外科	39
循環器内科	63	消化器内科	18
総合診療内科	62	脳神経外科	14
外科	40	合計	316

【疾患別栄養食事指導件数】

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	257	消化器術後	13
高血圧症	135	貧血	12
心臓病	130	肝臓病	12
がん	36	肥満	10
脂質異常症	31	膵臓病	9
低栄養	21	胆石症	7
腎臓病	20	胃・十二指腸潰瘍	4
低残渣	17	痛風	3
摂食嚥下障害	16	その他	2

③特別食加算率

加算率は 26.2%であった。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食だった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率 (%)
194,160	21,635	121,580	50,945	26.2%

【管理栄養士から加算特別食提案変更件数】

診療科	提案変更件数	診療科	提案変更件数
外科	17	整形外科	9
総合診療内科	12	脳神経外科	8
循環器内科	10	消化器内科	5
脳神経内科	9	代謝内科	2
合計	72		

特別食加算の漏れがないよう入院時・入院中に特別食該当患者を抽出し、主治医へ主に ToDo メールで連絡。変更提案件数は 72 件だった。

④栄養サポートチーム（NST）について

令和 5 年度は栄養サポートチーム加算算定を目指し、7 月より本格的に回診を行い、施設基準に必要な所定の研修を修了した 4 職種（医師、薬剤師、看護師、管理栄養士）の受講が終了した 8 月より栄養サポートチーム加算算定を開始した。

栄養サポートチームラウンド件数

	3 階病棟	4 階病棟	6 階病棟	8 病棟	合計
回診件数	13	12	45	14	84
算定件数	13	0	18	3	34

※一般病棟（3 階病棟）：週 1 回算定可能

障害者病棟（6 階病棟・8 病棟）は月 1 回 入院日より 180 日以内 算定可能

地域包括ケア病棟：栄養サポートチーム加算算定は包括点数に含まれるため非算定。

⑤患者食糧費経理状況

令和 5 年度も前年度と同様、食材料単価の高騰を踏まえ、経費削減のための対策を検討。廃棄処分の食材を極力減らすべく、発注変更や食材選択、さらに献立作成においても適切な食品選択、食材単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1 食あたりの実行単価
55,899,862 円	288.69 円

3. 学会発表・講師・講演会

2023. 4. 20

国立病院機構九州グループ 新採用者研修栄養士分科会

キャリアパスと協議会活動 金子 友美

2023. 11. 18 第 19 回九州国立管理栄養士協議会栄養管理学会

患者満足度向上を目指した献立精度管理に向けた取り組み

栄養管理室¹⁾ 言語聴覚士²⁾ (株) LEOC³⁾

松田早咲耶¹⁾ 金子友美¹⁾ 神代恵¹⁾ 竹田容子²⁾ 久家寛史²⁾ 北村亮太²⁾ 滝本孝二³⁾ 山口知子³⁾

臨床研究部

臨床研究部

1-1 治験

- ・二次性全般化発作を含む部分発作を有する 16 歳以上のてんかん患者に対する BRIVARACETAM 併用投与における長期安全性及び有効性を評価するための非盲検、多施設共同、長期継続投与試験（戸田）

- ・全身型重症筋無力症患者を対象としたサトラリズマブの有効性,安全性,薬物動態及び薬力学を評価するための第 III 相ランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同試験（福留）

（新規）

- ・NPC-22 の慢性流涎症患者を対象とした第 II/III 相試験：ノーベルファーマ（福留）

1-2 EBM

なし

1-3 機構研究

- ・簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立（採択番号 H30-NHO(循環)-03）（二宮）

- ・大規模糖尿病・肥満症コホートを生かした認知機能低下・認知症発症の予知因子の解明（JOMS/J-DOS2）-長期追跡調査-（採択番号：H29-NHO（糖尿）-01）（二宮）

- ・慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立（二宮）

- ・神経核内封入体病（Neuronal Intranuclear Inclusion Disease）に関する全国疫学調査および臨床像の確立（採択番号：H31-NHO(神経)-02）（福留）

- ・グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌モデルの開発と検証：R5-NHO-03（大野）

（新規）

- ・後期パーキンソン病の予後に関する多施設共同前向き研究

2 競争的資金

- ・MuSK 活性化剤の生物活性・毒性評価および筋無力症動物モデルを用いた POC の確立（樋口・分担）・AMED

- ・エピトープ解析（樋口・分担）・日本医大

- ・診断基準策定、国際的な総意形成、自己抗体測定に係るコンサルテーション（樋口・分担）・日本医大
- ・スモンに関する調査研究班（福留・分担）・厚労省
- ・全国調査推進、診断基準策定（松尾秀徳・分担）・日本医大
- ・データ分析、企業との共同研究を模索（松尾秀徳・分担）・日本医大

3 特許

抗原固相化デバイス：特願 2022-131213（樋口）

4-0 業績発表（英文）

- 1 Tomoko Narita, Shunya Nakane , Akiko Nagaishi, Naoya Minami, Masaaki Niino, Naoki.

Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan.

THERAPEUTIC ADVANCES in Neurological Disorders.2023(IF 5.854)

4-1 業績発表（和文）

なし

4-2 業績発表（学会発表）

- 1 福留隆泰. Myasthenia gravis Lambert-Eaton overlap syndrome(MLOS)の臨床像. 第 64 回日本神経学会学術大会
- 2 福留隆泰. ALS と封入体筋炎の鑑別に苦慮した 2 症例. 第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会
- 3 戸田啓介. 新しいてんかん症候群について考える：脳神経外科からみたてんかん症候群の意義と課題. 第 56 回日本てんかん学会学術集会
- 4 永石彰子. Gliosarcoma の一剖検例. 第 147 回県北神経懇話会
- 5 永石彰子. 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 ～病気の理解と日常生活について～. 難病医療講演会
- 6 熊谷謙治. 特別講演『骨腫瘍の診断（治療）』. 第 111 回長崎整形外科懇話会
- 7 熊谷謙治. 症例提示：奇異な骨腫瘍の 2 症例. 佐世保整形外科医会 特別講演会
- 8 林 信孝. 口腔内常在菌によると考えた化膿性脊椎炎を呈したパーキンソン病の一例. 第 146 回県北神経懇話会
- 9 林 信孝. 当院におけるパーキンソン病治療. 第 148 回県北神経懇話会特別講演会
- 10 川原知瑛子. 頑張っている女性医師の話を聞こう！ in 長崎. 第 55 回日本医学教育学会大会
- 11 牧園征也. 脳卒中ケアユニット入院患者の ADL 動作に対するリハビリテーションスタッフと看護師の FIM 評価の比較. 第 77 回 国立病院総合医学会（第 56 回 塩田賞受賞講演）
- 12 森川憲人. 膝蓋上嚢内組織に着目し、TKA 後の 膝関節屈曲制限因子の検討をした一例 ～超音波診断

装置及び膝関節鏡の所見から～. 第 28 回 日本基礎理学療法学会学術大会

- 13 山田竜一郎. 理学療法分野の知識習得における大規模言語モデルの有効性の検証. 第 6 回 日本理学療法管理学会学術大会
- 14 園田恵理. 長崎川棚医療センターにおけるプレアボイド報告事例の解析—患者状態に合わせた薬学的ケア向上を実施するために—. 第 47 回九州地区国立病院薬剤師会薬学研究会
- 15 金澤絵莉. 中規模病院における免疫抑制・化学療法による B 型肝炎ウイルス再活性化予防の取り組み. 第 77 回国立病院総合医学会
- 16 阪元孝志. 心不全患者におけるトルバプタン顆粒の先発医薬品から後発医薬品への切り替えによる臨床的検討—先発医薬品サムスカ®顆粒との有効性及び安全性の比較検討—. 第 33 回日本医療薬学会年会
- 17 松田早咲耶. 患者満足度向上を目指した 献立精度管理に向けた取り組み . 第 19 回九州国立管理栄養士協議会栄養管理学会

医療相談支援センター－地域医療連携室－

地域医療連携係長 富永 文子

基本方針

1. 患者の安心安全を考慮した退院調整と前方連携の実施
2. 患者のための多職種チーム医療の実践

目標

1. 患者・家族の思いを尊重した退院支援を実施する
2. 組織の一員として病院経営の安定化に向けた経営参画ができる
3. 外部評価（病院機能評価）受審に向けたチーム医療の推進と部署内での体制整備を実践する
4. 自部署の質向上に寄与できる自律した人材の育成

I. 患者の動向

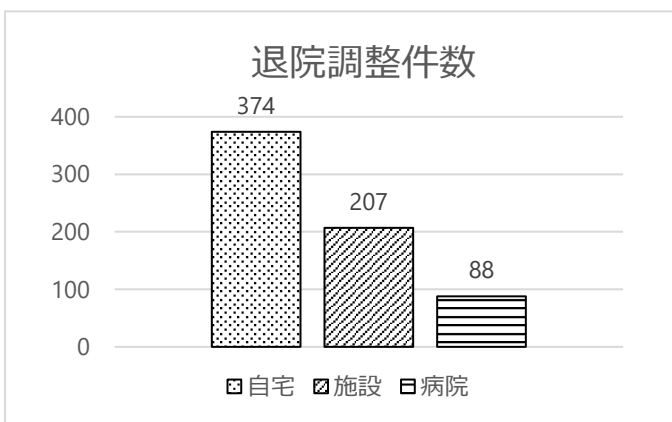
(2023 年度)

診療予約件数	908 件
共同利用件数 CT	299 件
MRI	538 件
内視鏡	115 件
その他	32 件
入退院支援加算 1（700 点）	401 件
介護支援等連携指導料（400 点）	68 件
多機関共同指導加算（2000 点）	1 件
支援相談件数	355 件
入院支援センター介入件数	452 件
転院受入れ相談件数	106 件

II. 看護職員等数 (2023年4月1日現在数)

看護師長	1名
看護師	3名
医療社会事業専門員	2名
事務助手（看護部）	1名
事務助手（事務助手）	2名

III. 退院調整先一覧



IV. 紹介率・逆紹介率、

あじさいネット登録患者数

(2023年度)

紹介率（50%以上）	95.2%
逆紹介率（70%以上）	105.9%
あじさいネット登録患者数	284件

V. 看護

1. 退院支援スクリーニングにて退院困難要因を抽出し、患者・家族との面談にて意向を確認し退院支援カンファレンスにて多職種で退院後の生活に視点を置き問題点を検討し解決に向け取り組んだ。また、早期から地域の関係機関やケアマネージャーと連携を図り、時期を逃さず退院に繋がる退院支援を行った。

2. 退院支援スクリーニングと二次スクリーニングカンファレンスを実施し退院調整を進め入退院支援加算 I 取得に繋がった。また、入院早期から患者の安心につながる退院に向け地域のケアマネージャーと連携しカンファレンスを開催することで介護支援等連携指導料の取得を実施した。
3. 外部評価受審に向け、部署内で評価項目の自己チェックを実施し業務内容や体制の見直しを行い院内・院外の連携体制の充実とデータ管理の整備に取り組んだ。
4. 退院支援マニュアルに沿ってタイムリーな入退院支援を実践した。部署内や地域との情報共有と研修参加にて自己研鑽で入退院支援に関する視野を広げ、知識の向上に努めた。

VI. 研修受講

富永文子（看護師長）：入退院支援に関する実践能力向上研修 実習後フォローアップ研修 講師

西田美穂（MSW）：令和 5 年度 MSW 研修

小井隆一郎（MSW）：令和 5 年度医療社会事業専門員研修

危機管理センター – 医療安全管理室 –

医療安全管理室 南 聡美

基本方針

1. 医療安全に対する職場風土の醸成
 - 1) 病院職員のリスク感性を高めるための活動・人材育成
 - 2) “人は間違えるものである”という認識を持ち、継続した教育とシステム改善
2. 患者参加型のチーム医療の実践

目標

1. リハビリテーション科と看護師のウォーキングカンファレンス継続
2. 急変時対応の基本的行動を習得するため、院内
BLS 研修を開催する

I. インシデント状況

1. 発生件数（件）

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
件数	470	445	406

2. レベル別件数（件）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
0	20	63	70
1	128	108	117
2	203	179	164
3a	65	57	30
3b	15	15	10
4 以上	0	0	2
評価困難	2	15	13

3. 主な内容（件）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
与薬	52	56	56
点滴注射	25	24	24
処置関連	14	9	9
検査関連	24	48	52
チューブ	42	36	29
人工呼吸器関連	4	7	4
転倒転落	135	94	101
療養上世話	18	14	10
皮膚損傷	31	24	8
患者誤認関連	8	9	9

4. レベル 3b 事例 10 件

- 1) 転倒転落に関する事 9 件
- 2) 療養上の世話に関する事 1 件

5. レベル 4 以上事例 2 件

- 1) 転倒連絡に関する事 1 件
- 2) 嘔吐、誤嚥による窒息 1 件

II. 評価

1. 昨年度導入したリハビリテーション科とのウォーキングカンファレンスは継続できている部署とそうでない部署があった。継続できていない部署に対して、取り組み時間やカンファレンス方法について助言を行い、現在定着している。今後も定期的カンファレンスに参加して安全管理の視点で実施できているか確認していく。

2. BLS 研修は数年間実施できていなかったため、今年度は JNP に協力を依頼。毎週月曜日 14:00 から 14:40 に実施してきた。

参加者には参加日を把握していない職員もあり調整が困難な場合があった。

Ⅲ. 医療安全相互チェックおよび医療安全会議

1. NHO 医療安全相互チェック

2022年10月、オンライン

2. 地域連携における相互チェック

2023年12月 加算2 訪問

2024年1月2月 加算1 相互チェック

3. 佐賀県・長崎県小グループ医療安全管理者会議

対面・オンライン意見交換、情報共有

Ⅳ. 学会発表

なし

危機管理センター — 感染管理 —

感染対策室 内野めぐみ

基本方針

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

I. 実績

1. 入院患者の感染対策

	2024年3月 現在
血液培養 2 セット実施率	94.2%
広域抗菌薬適正使用時の細菌培養実施率	100%
手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与	91.6%

2. 施設基準など取得状況（2024年3月現在）

- ・感染対策向上加算 2 175 点
- ・連携強化加算 30 点
- ・サーベイランス強化加算 5 点

II. 感染対策に関する教育・研修

1. 2023 年度新採用者教育

2. 手指衛生の啓発 各月・毎週の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック

3. 個人防護具着脱手順の指導とチェック表に基づいた確認の実施（リハビリテーション科）

4. 看護実践能力開発講座（1 月）参加者：39 名

Ⅲ. 病院職員の健康管理

- 1.新採用者・異動者の4種価抗体チェック
- 2.季節性インフルエンザワクチン接種
- 3.新型コロナワクチン接種
- 4..体調不良者のPCR検査調整
- 5.入院患者の発熱時 COVID-19 検査実施

Ⅳ. 感染発生の動向監査

- 1.1 回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。
- 2.手術部位感染サーベイランス（JANIS）

2023年度手術部位感染発生率前期8.3%、後期9%であった。発生した患者の背景は化膿創や穿孔、既往に糖尿病や抗がん剤治療のため免疫力が低下し、手術部位感染を起こすリスクが高い患者であった。

3. 感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）手指消毒遵守率7月、11月、12月は80%以上を達成。それ以外の月は70%前後での遵守率であった。

Ⅴ. 抗菌薬の適正使用

抗菌薬適正使用チームでは、薬剤師が中心となり、特定抗菌薬の届出患者の確認、適正使用に対する相談と2週間以上の長期投与患者がないか週に1回カンファレンスした。

介入件数 16/38 件（2024年3月現在）

Ⅵ. 加算施設との合同カンファレンス

地域連携加算施設と年4回WEBにて合同カンファレンスを実施した。新型コロナウイルス感染対策に関する机上訓練、院内発生クラスターなど各施設の対応について情報共有した。地域連携指導強化加算連携のため加算1施設と合同で環境ラウンドを年2回実施した。清拭車のチェック表の作成、検体運搬容器の変更、薬剤冷蔵庫の温度計設置等、指摘事項を院内全体で情報共有し改善に繋がった。

VII. 感染対策のための職員研修

開催日	テーマ	講師	受講率
2023年5月15日 ～6月10日	「新型コロナ感染症は5類感染症へ 今後の医療機関はどう変わる？」	ICN	100%
2024年1月15日 ～3月31日	インフルエンザに負けないぞ！	ICN	99%

医療機器管理室

医療機器管理室長 津田 真実

臨床工学技士業務、実施件数報告

臨床工学技士 2 名在籍。

主な業務：

医療機器管理室内の業務（医療機器の管理・点検など）、血液浄化業務、手術室業務、ペースメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、勉強会・説明会開催など

① 医療機器管理（貸出・返却・点検）

・貸出し前点検、定期点検、修理（メーカー手配合む）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	70	75	43	68	56	47	85	71	46	60	75	71	767
		60	72	43	68	54	55	85	47	56	61	36	55	692
	返却	47	92	75	51	61	46	64	75	50	67	66	59	753
		75	74	75	62	61	58	64	52	54	60	52	61	748
	貸出前点検	48	80	56	56	60	45	71	77	46	57	80	58	734
		78	62	55	68	60	57	71	46	55	60	49	68	729
	定期点検・修理	18	30	26	6	14	8	19	7	7	30	22	22	209
		16	26	29	18	2	7	6	10	8	45	29	27	223

※赤文字：2023 年度、灰色背景：2022 年度

② 手術室

・DBS、ITB、VNS など手術立ち合い

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
DBS (脳深部刺激療法)	新規植込み	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
		0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	5
	IPG交換	1	0	1	0	2	4	2	0	1	2	2	1	16
ITB (バクロフェン髄注療法)	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	リフィル	0	2	1	0	2	1	1	0	1	1	2	0	11
VNS (迷走神経刺激療法)	新規植込み	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

※赤文字：2023 年度、灰色背景：2022 年度

血液浄化業務 (アフェリシス業務)

単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化 業務	単純血漿交換	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	J039:4,200点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	CHDF(日数)	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	7
	J038-2:1,990点	0	1	0	2	0	0	2	0	9	0	0	0	14
	PMX	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	J041:2,000点	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	腹水濾過濃縮	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	K635:4,990点	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
GCAP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J041-2:2000点	0	0	1	6	4	0	0	0	0	0	0	0	11	

※赤文字：2023 年度、灰色背景：2022 年度

③ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8 病棟は 2 回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認 (10~40 件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器 管理業務	ラウンド	318	429	488	415	289	173	419	328	341	383	382	268	4233
		425	415	361	387	433	273	351	376	374	336	388	240	4359

※赤文字：2023 年度、灰色背景：2022 年度

④ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い (プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ (5~6 人/週) (毎週金曜 9:00~12:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー 関連業務	外来 フォローアップ	23	15	18	17	9	11	15	13	19	16	3	15	174
		15	22	21	21	12	7	12	20	21	16	9	13	189
	入替術後チェック	0	2	3	2	0	0	1	0	1	0	0	2	11
		0	0	1	3	1	1	0	0	0	5	0	0	11
	手術立会い	0	2	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	9
		0	0	1	2	0	0	0	0	0	6	0	0	9
MRI立会い	0	0	1	1	0	3	0	1	1	0	0	1	8	
	1	1	3	2	0	1	0	1	0	0	1	0	10	

※赤文字：2023 年度、灰色背景：2022 年度

⑤ 医療機器安全使用研修会

・勉強会、説明会の実施

2023 年度の実施件数 81 回（人工呼吸器関係 36 回、その他 45 回）

・対面による研修

日時	場所	内容	対象者	参加者数
4月3日(月)10:30~11:30	8病棟	人工呼吸器の取扱について	看護師	3名
4月14日(金)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器とは	看護師	2名
4月25日(火)13:00~14:00	8病棟	NPPVについて	看護師	2名
4月25日(火)14:30~15:00	4階病棟	AEDの使用方法について	看護師	2名
4月25日(火)15:30~16:30	6階病棟	人工呼吸器トリロジー-Evoについて	看護師	4名
4月27日(火)14:30~15:30	8病棟	トリロジー-Evo、モード(SIMV VC/PC)について	看護師	2名
5月10日(水)13:00~14:00	8病棟	人工呼吸器モナール、持続吸引、モード(AVCV/APCV)について	看護師	2名
5月18日(木)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器トリロジー、分時換気量アラーム、BVMについて	看護師	2名
5月25日(木)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器モナール、呼気弁対応など	看護師	2名
5月26日(金)15:30~16:30	6階病棟	人工呼吸器トリロジー-Evoについて	看護師	2名
6月1日(木)14:30~15:00	8病棟	人工呼吸器復習小テスト	看護師	2名
6月7日(水)14:00~15:00	8病棟	回路交換の実践	看護師	2名
7月14日(金)13:45~14:00	救急外来	除細動器(TEC-5631)使用方法について	看護師	8名
7月27日(木)~8月10日(木)16:30~16:45	8病棟	ASV療法について(5回)	看護師	30名
10月4日(水)、10月10日(火)14:15~14:30	8病棟	JMS輸液ポンプ(OT-808)の使用方法について	看護師	1名

12月1日(金) 14:00~15:30	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	2名
12月11日(月)~15日(金) 1) 13:00~, 2) 14:00~, 3) 15:00~	ME室	人工呼吸器サーボ Air 取扱について (10回)	3F 看護師	21名
12月14日(木) 13:00~14:10	6階病棟	人工呼吸器トリロジー-Evo について①	看護師	1名
12月18日(月) 14:00~14:30	外来	人工呼吸器トリロジー-02-Evo について	看護師	12名
12月19日(火)~28日(木) 1) 11:00~, 2) 11:30, 3) 13:30~ 4) 14:00~, 5) 14:30, 6) 15:00~ 7) 15:30~	ME室	人工呼吸器サーボ Air の取り扱いにつ いて (9回)	看護師	22名
12月28日(木) 13:00~14:10	6階病棟	人工呼吸器トリロジー-Evo について②	看護師	1名
令和6年2月7日(水)~3月 1日(金) 1) 11:00, 2) 11:30, 3) 13:30~ 4) 14:00~, 5) 14:30, 6) 15:00~	ME室	JMS 輸液ポンプ(IP-100)の取り扱いにつ いて(38回)	看護師	81名
令和6年2月15日(木) 14:00~14:30	救外	人工呼吸器トリロジー-02 について	看護師	2名

資格等について

1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名
臨床 ME 専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会
医療機器情報コミュニケーター	1	日本医療機器学会
日本アフェリス学会認定技士	1	日本アフェリス学会
3 学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会
第 1 種 ME 技術者	1	日本生体医工学会
第 2 種 ME 技術者	2	日本生体医工学会
BLS ヘルスクエアプロバイダー	1	長崎 ACLS トレーニングサイト

2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェリス学会	評議員 (2025 年総会まで)
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

事務部—管理課—

管理課長 安藤 隆幸

令和5年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付式 (4/3) 転入者・新採用者オリエンテーション (4/3) 永年勤続表彰 (4/4)	
5月		
6月	一般健康診断 (6/12～16) 生涯教育講座 (6/13) 地域医療支援病院運営委員会 (6/22) 看護職員採用試験(6/24) 1回目	
7月	病院機能評価模擬受審(7/19) 生涯教育講座 (7/25)	
8月	患者満足度調査 (入院 8/15～8/14、外来 8/9、14) 看護職員採用試験(8/26) 2回目	
9月	生涯教育講座 (9/22) 地域医療支援病院運営委員会 (9/28) ストレスチェック (9/4～19) 看護職員採用試験(9/30) 3回目	
10月	病院間医療安全相互チェック (10/12) 東彼地区公開講座(10/14) 国立病院総合医学会 (10/20～21) 合同慰霊祭 (10/24～25) 幹部看護師任用候補者選考試験 (10/25) ※オンライン 生涯教育講座 (10/27) 全館停電作業 (10/28)	
11月	病院機能評価(11/1～2) 生涯教育講座 (11/29)	

12月	監査法人期中監査 (12/13~14) 特殊健康診断 (12/18~22) 地域医療支援病院運営委員会 (12/28)	
1月	看護職員採用試験(1/20) 4回目 医療監視 (1/23)	
2月	ナース専科主催看護師就職説明会 福岡 (2/12) 九州グループ主催看護師就職説明会 長崎 (2/18) 消防訓練 (2/21) 地域医療支援病院運営委員会 (2/22) マイナビ主催看護師就職説明会 長崎 (2/23)	
3月	九州グループ主催看護師就職説明会 福岡 (3/2) 生涯教育講座 (3/4) 辞令交付式 (3/29)	

事務部—企画課—

企画課長 白石 剛

2023年度医療機器等契約状況一覧

機器等区分	機器名	メーカー	規格	数量	納品月	更新 新規 増設
骨密度測定装置	骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon Wi	1	R6.3	新規
歯科用ユニット	歯科用ユニット	GC	EOM-AQUA CLS	1	R5.7	更新
電気メス	電気メス	Medtronic	Valleylab FT10 エネルギープラットフォーム	1	R5.10	更新
温冷配膳車	温冷配膳車	ホシザキ	MSC-54RPF3	1	R6.5	更新
その他	全自動輸血検査システム	オーソ・クリニカル・ ダイアグノスティックス	オーソビジョンSwift	1	R5.11	更新
その他	整形外科用手術台	タカラベルモント	DR-6500	1	R6.2	更新
合 計				6		